

障害者共同作業所での活動

今回のチャレンジ隊はボランティア・NPOセンターの近くにある障害者共同作業所「ウェーブ」での体験です。「障害者共同作業所」という言葉は聞いたことはあるけれど、どのようなことをしているのかなと思いながら、利用者みなさんと一緒に作業所での造花作りと、町での清掃活動の2つにチャレンジしてきました。



組立途中の造花



作業所の皆さんと造花作り

<チャレンジ1>

まず利用者の方から造花の作り方を教えていただき、さっそく扇に松と二つの紅白の梅が描かれたプラスチック製の商品を作っていく作業にチャレンジです。今回はその中の、白い梅の花を、扇につける作業でした。利用者の方は個人のできる作業を手際よく進めていましたが、私たちは慣れるまではなかなか難しく感じました。集中して二時間ほど作業したあとは休憩です。麦茶をいただきながら、自己紹介をし色々な話をする事ができました。チャレンジ隊の緊張がほぐれたためか、休憩後の作業はあっという間に終わってしまったような気がしました。利用者同士の会話にも暖かさがあり、お互いを認めあっているようなとてもいい雰囲気でした。最後に、利用した箱や台をふき、掃除機をかけて今日の作業は終了です。

感想

- 一緒に作業を行ったことで、一体感も生まれ、「今日はたくさんできたね。がんばったね。みんなで作ると早いね。」という言葉がすこうれしかったし、共感できました。また、休憩時には、利用者の方がお茶を出してくださいました。心遣いがうれしかったです。
- 作業所ではたくさんの作業を行っていることがわかりました。また、同じ作業を行うときも、自分の力に応じてできるように、作業の過程をわけていて、自分で選べるのがやる気や、作業効率、笑顔につながっているのかなと思いました。
- 短時間の作業体験でしたが、活動内容について話を聞いたり、利用者の方と一緒に作業をする中で地域や仕事先とのつながりがとても厚く信頼感に満ちたものであると感じました。



作業所の形態にはレクリエーションを中心とする所や、作業を中心とする所などいろいろあるそうです。今回うかがった「ウェーブ」は作業が中心。「学ぶ」「集う」「働く」ことをテーマに役割を持ちながらの実践です。具体的には生ごみを堆肥化する「EMボカシ」という商品作りや清掃活動、縫製や造花の組み立てなどの軽作業を行っています。周囲に理解されやすい環境問題をメインとした作業を通じて、市民と一緒に考えたり提案したりすることを目指しているそうです。



<チャレンジ2> すみすみまでゴミを探しました

曇り空の中、はりまや橋商店街に集合し、アーケードを中心とした清掃活動にチャレンジです。

「NO!ポイ捨て」と書かれたおそろいの黄色のパーカーを着て、キャップをかぶり、軍手をし、手には火ばさみとビニール袋を持ち準備完了です。タバコの吸殻、カンやペットボトルから、曲がった傘、割れたビンまであらゆるものが街に捨てられていました。自動販売機の横や、溝、花壇の中など注意深くゴミを探して歩きます。ゴミの多さに驚きました。アーケードからおびさんロードを一周し、黙々と作業をしたあとは中央公園の北口で休憩です。蒸し暑い中いただいたお茶がとてもおいしかったです。利用者の方は普段の作業の様子や、以前アーケードをパレードしたことやいろいろと教えてくれました。そして最後に「大変だけれども、楽しい」と話してくれたことが印象に残っています。

感想

- いつもは見ても見ぬふりをしてきたゴミを拾ういい機会だった。いい汗をかいたし、多くの人との交流が楽しかった。休憩の時にいただいたお茶がとてもおいしかった。
- 街の美化が保たれている……ということを実感しました。

※作業所では、利用者とはふれあいながらともに作業してくれる方を求めています。また行事の手伝いの方も大歓迎です。